

令和6年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補**・県単

事業名	街路事業 [緊急街路整備改築事業 (国補)] 道路事業 [緊急道路整備改築事業 (国補)]	事業箇所	甲府市緑ヶ丘～和田町	地区名	(都) 新環状・緑ヶ丘アクセス線 (一) 天神平甲府線 (塚原ICアクセス)	事業主体	山梨県
-----	--	------	------------	-----	---	------	-----

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H21～H29	H21～R7	H21～R10
総事業費	6,000 百万円	5,200 百万円	8,300 百万円

(1) 事業の概要

① 事業目的及び効果

本路線は、(主) 甲府南アルプス線 (通称アルプス通り) と接続し、甲府都市圏の主要な南北軸として、「甲府都市計画区域マスタープラン」に位置付けられているとともに、新山梨環状道路北部区間へのアクセス道路としての機能を有する。
新山梨環状道路北部区間については、平成17年2月に概略計画を公表し、これまでに、国土交通省にて環境影響評価及び都市計画決定に向けた手続きを行っており、事業化に向けた状況が整いつつある。

- 主要目標
 - 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上
 - 混雑時走行速度 12.7km/h < 30km/h以下※
 - 自動車交通量 9,299台/12h (平日)
 - >3,340台/12h (平日) 以上※ ※評価基準値
- 副次目標
 - 災害に強い道路の確保
- 副次効果
 - 緊急時の避難・救助機能の確保
 - 重要プロジェクトとしての位置付け

② 事業概要

計画延長：L=1,420m W=7.5 (18.5) m
(街路事業) L=645m、(道路事業) L=775m
道路幅員：車道6.5m (2車線) 歩道2.0m (両側) 自転車道2.0m (両側)

③ 全体計画

		令和5年度まで	令和6年度 (評価実施年度)	令和7年度以降
現計画	工事内容	測量及び道路設計 用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事	道路改良工事 トンネル工事	道路改良工事 トンネル工事
	事業費	4,640 百万円	300 百万円	260 百万円
変更計画	工事内容	測量及び道路設計 用地補償 道路改良工事 橋梁工事	用地補償 道路改良工事 舗装工事	トンネル工事 舗装工事
	事業費	4,598 百万円	520 百万円	3,182 百万円

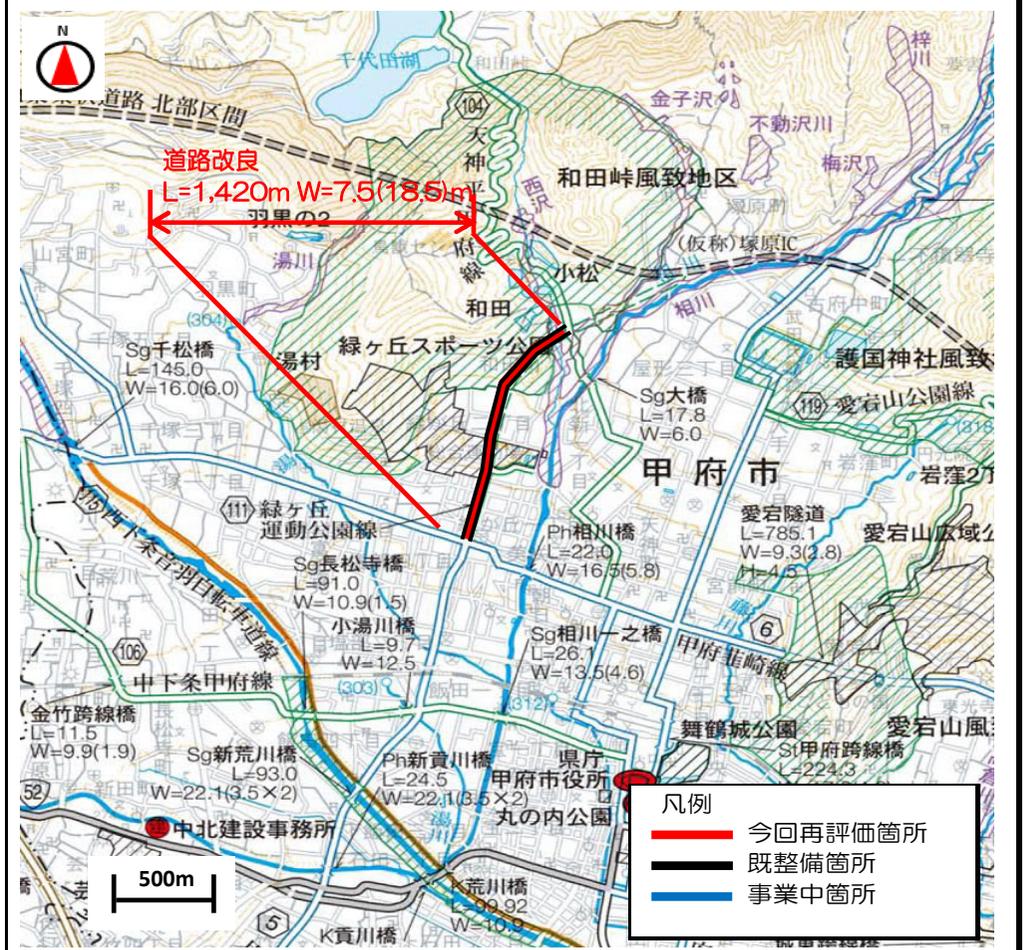
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

④ 特記事項 (関連事業概要等)
・ 新山梨環状道路 (北部区間) 牛久～宇津谷 H16事業化
広瀬～桜井 H28事業化
桜井～塚原 R6新規事業化

⑤ これまでの評価状況 (令和元年度再評価)

用地取得に一定の目処が立っていること、計画区間の縮小によりバイパス機能の早期発現が見込まれることから、見直し案により事業を継続することが妥当である。

(2) 事業位置図等



2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

なし

②産業・経済情勢

なし

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

- ・「山梨県総合計画」（令和5年10月改訂）
- ・「山梨県強靱化計画」（令和6年3月改定）
- ・「山梨県社会資本整備重点計画（第四次）」（令和4年9月改定）
- ・「山梨県道路の整備に関するプログラム」（令和6年3月改定）

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項目	着手時点	再評価時点	変更計画時点	
総事業費	6,000 百万円	5,200 百万円	8,300 百万円	
工期	H21~H29	H21~R7	H21~R10	
評価基準年	H20	R1	R6	
経済 効 率 性	費用	4,780 百万円	4,936 百万円	8,905 百万円
	建設費	4,660 百万円	4,846 百万円	8,809 百万円
	維持管理費	120 百万円	90 百万円	96 百万円
	その他()	百万円	百万円	百万円
	便益	10,890 百万円	8,584 百万円	15,140 百万円
	走行時間短縮	8,840 百万円	7,177 百万円	13,511 百万円
	走行経費減少	1,380 百万円	866 百万円	1,125 百万円
交通事故減少	370 百万円	226 百万円	184 百万円	
その他※	百万円	315 百万円	320 百万円	
B/C	2.3	1.7	1.7	

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、救急救命率向上便益、観光客増加便益

（3）これまでの計画変更等の概要

（令和元年度）

用地補償交渉の難航、埋蔵文化財調査（本調査）の実施による事業期間の延長及び整備効果の早期発現による事業費の見直し。

- ・完成年度 令和2年度 → 令和7年度
- ・事業費 60億円 → 52億円

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率
別表のとおり。
R6年度進捗率(現計画)95.0%→(実績)98.4%→(変更計画)61.6%

②進捗率実績が計画と相違している理由
トンネル工事について、地元協議により、トンネル掘削ズリの搬出ルートを通学路等を避けたスポーツ公園内の新設道路(街路事業区間)に設定することとなり、工程調整の結果、街路区間概成後にトンネル工事に着手することとしたため。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
道路改良工	450 百万円 増	湧水対策のために仮設土留工を追加した。
電線共同溝	500 百万円 増	沿線の建物計画に合わせて引込設備や分岐柵を追加した。
トンネル工	2,150 百万円 増	自転車通走行空間の確保に伴う道路幅員の見直しにより工事費の増加した。 地元協議により、騒音対策費を計上した。
合計	3,100 百万円 増	

※事業費増額には資材・労務単価上昇分を見込む

④事業期間の変更理由及び進捗予定
地元協議により、トンネル掘削ズリの搬出ルートを通学路等を避けたスポーツ公園内の新設道路(街路事業区間)に設定することになった。工程調整の結果、街路区間概成後にトンネル工事に着手することとしたため、工期を3年延長し、令和10年の完成を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点
なし

(5) 環境負荷等への配慮

なし

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他()

(理由)
現在、用地取得率99%まで進捗しており、工事は最盛期を迎えている。工事に関する現地説明や協議会との意見交換等を通じて、事業に対する理解を得られていることから、事業を継続し、変更計画に基づき令和10年度の完成を目指す。

〇別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法:【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位:%

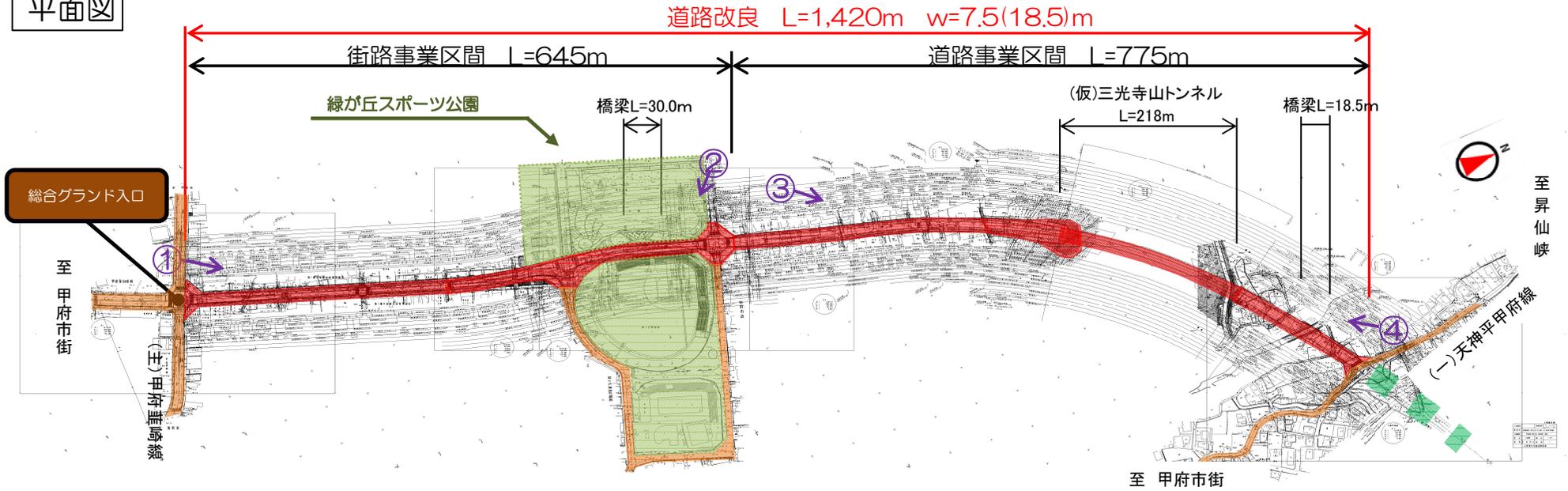
	年度	*R1	R2	R3	R4	R5	*R6	R7	R8	R9	R10
現	計画	49.9	59.6	66.9	76.1	89.2	95.0	100.0			
	実績	48.2	56.1	66.3	74.4	88.4	98.4				
	変更計画						61.6	78.9	93.8	98.6	100.0

*評価年度

*R6年度の実績は見込み

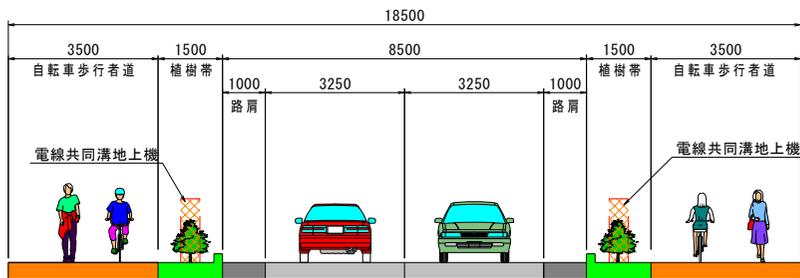
3. 添付資料シート (1)

平面図

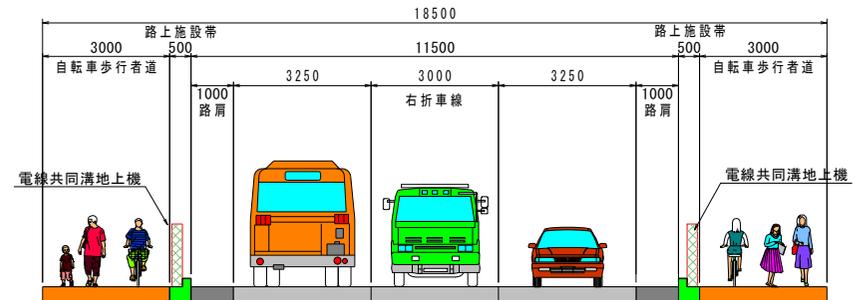


標準横断図

一般部



交差点部

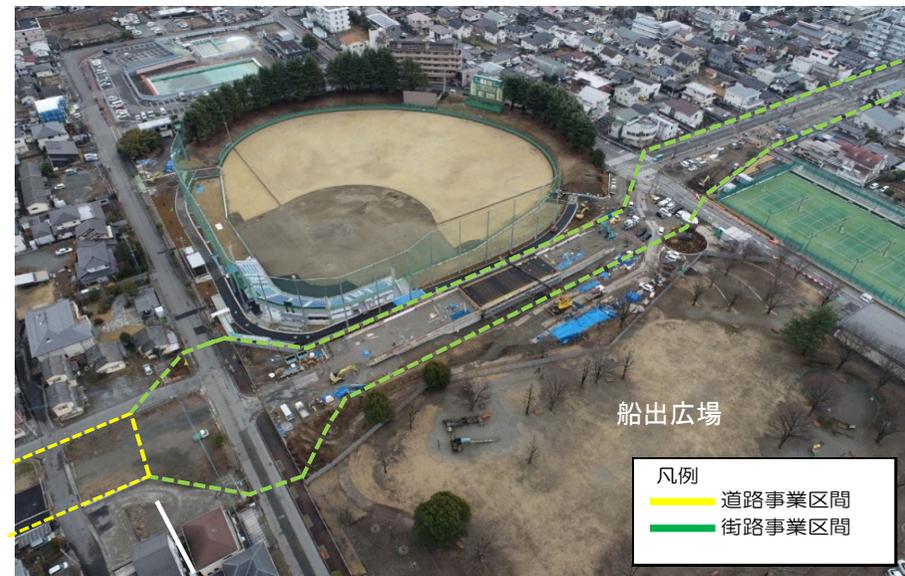


3. 添付資料シート (2)

① 街路事業区間 (総合グランド入口交差点から北方向)



② 街路事業区間 (緑ヶ丘船出広場付近)



③ 道路事業区間 (緑ヶ丘野球場から北方向)

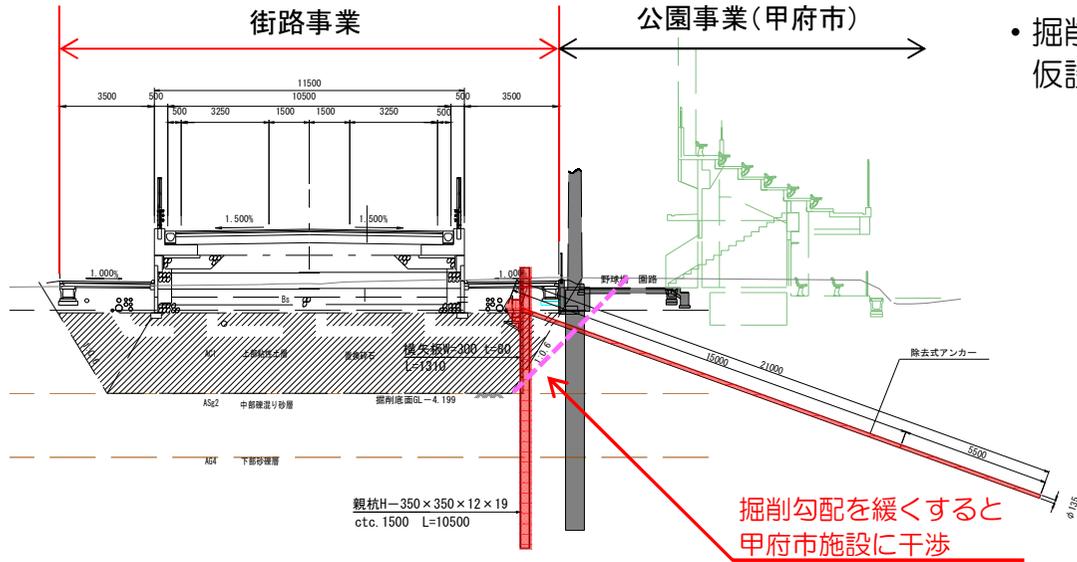


④ 道路事業区間 (天神平甲府線から南方向)



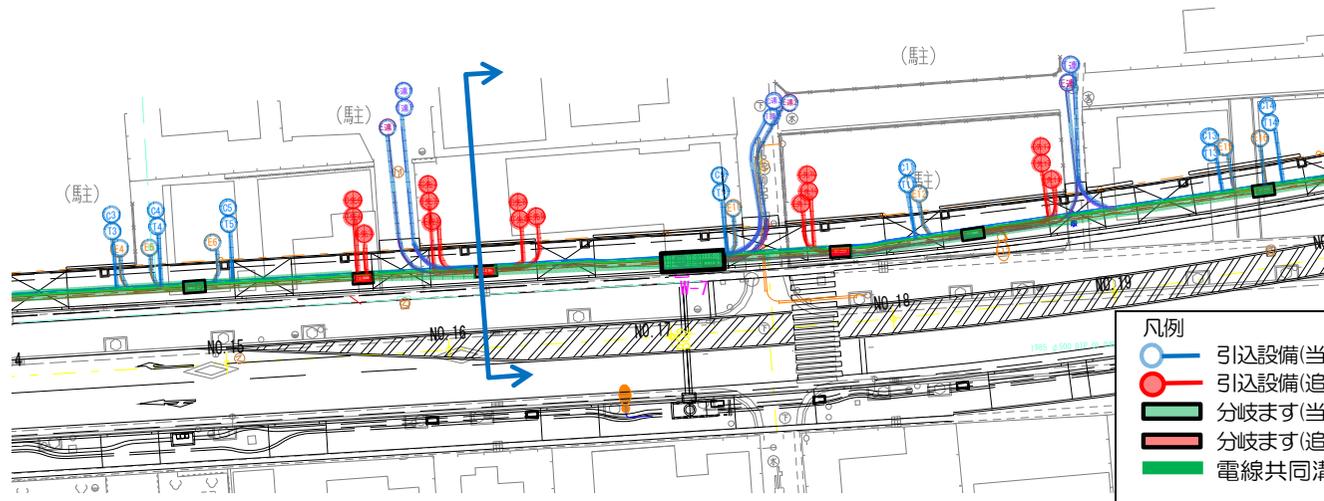
3. 添付資料シート (3)

変更要素① 仮設土留工の追加

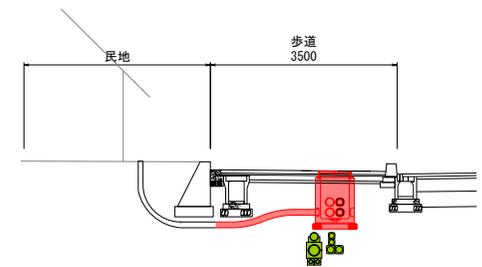


- 掘削中に湧水が発生し、切土面の自立が困難なことから仮設土留工を追加した。

変更要素② 電線共同溝

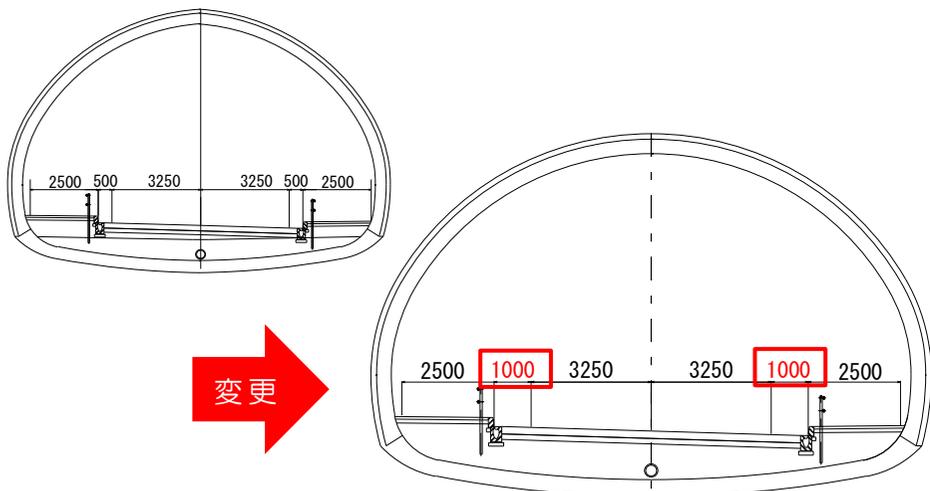


- 沿線の建物計画に合わせて引込設備や分岐枿を追加した。



3. 添付資料シート (4)

変更要素③ トンネル幅員の見直し



- 自転車走行空間の整備のため、路肩幅員を0.5mから1.0mに変更した
(山梨県県道の構造基準等を定める条例 (R2.4.1改正))

変更要素④ トンネル工の騒音・振動対策

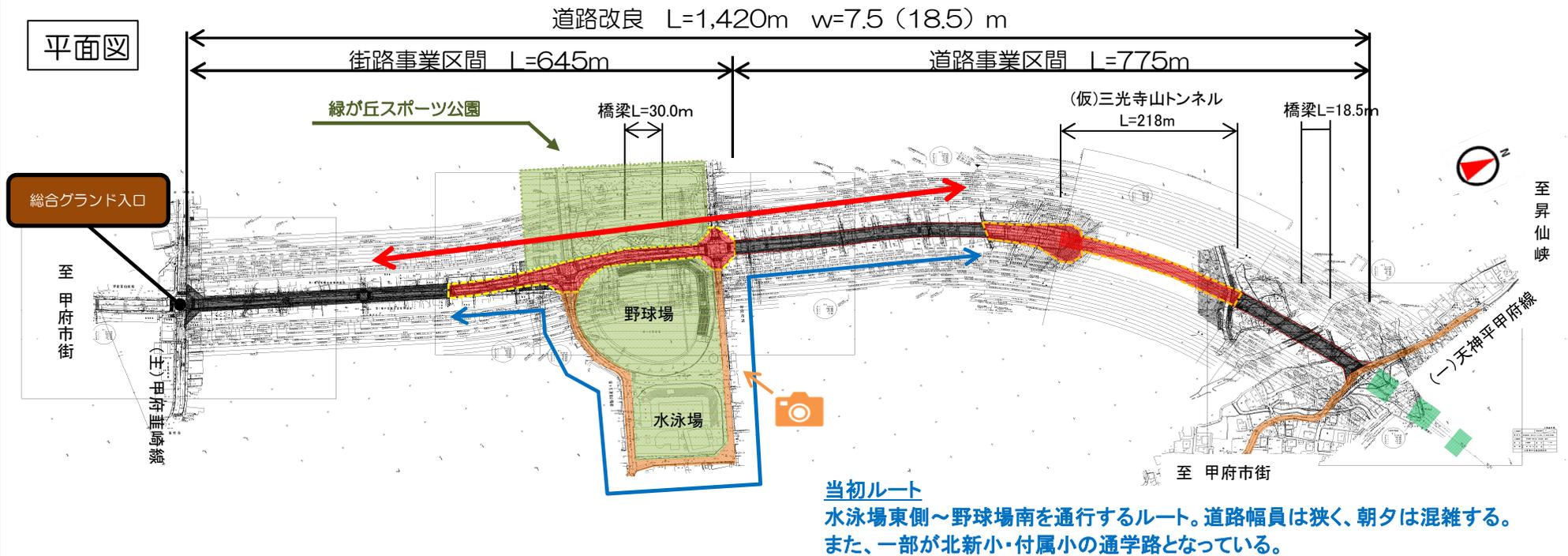


- 作業ヤード付近の新築家屋への騒音等を影響を考慮し、トンネル仮設備を囲むように防音壁を追加した

3. 添付資料シート (5)

変更要素⑤ 事業期間の延長

トンネルズリの搬出経路については、緑ヶ丘スポーツ公園を東回りに迂回するルート（下図青色）を想定していたが、地元協議会から、朝夕の混雑や一部が通学路と重なることなどから街路事業区間（下図赤色）を通行するよう要望されたため、街路事業が概成するまでトンネル工事の着手をやむを得ず先送りすることとなった。また、トンネル掘削を「昼夜2交代施工」から「昼のみ施工」に変更したことにより、掘削期間が延びることから、その後の工事期間を含めて事業期間を3年延長する。



4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H21	13,000	道路予備設計・地質調査・地形測量	0.2
H22	6,000	道路詳細設計・路線測量	0.2
H23	35,000	トンネル詳細設計・用地測量	0.7
H24	53,000	用地測量調査	1.3
H25	339,061	用地調査・電線共同溝予備設計	5.4
H26	760,985	用地補償・埋蔵文化財調査	14.5
H27	312,878	用地補償・埋蔵文化財調査	18.3
H28	289,165	用地補償・埋蔵文化財調査	21.8
H29	129,939	用地補償	24.0
H30	217,522	用地補償 用地補償・歩道橋撤去工事・設計	27.2
R1	352,004	用地補償・道路改良工事・電線共同溝詳細設計 用地補償・歩道橋撤去工事・設計	32.6
R2	411,361	用地補償・舗装工事 用地補償・設計	38.8
R3	529,069	用地補償・電線共同溝工事・トンネル設備設計 用地補償・設計・埋蔵文化財調査	46.4
R4	420,653	用地補償・橋梁下部工事（A2）・道路改良工事 橋梁工事・道路改良工事	52.7
R5	728,842	用地補償・橋梁上下部工事・道路改良工事 電線共同溝工事・交差点改良工事	62.6
R6	520,000	用地補償・道路改良工事 電線共同溝工事・舗装工事	67.7
R7	1,430,000	トンネル本体工事 舗装工事	82.5
R8	1,240,000	用地補償・トンネル本体工事 舗装工事・道路台帳	97.4
R9	400,000	トンネル設備工事・道路改良工事・舗装工事	99.8
R10	111,521	舗装工事、道路台帳	100.0
合計	8,300,000		